

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300867		
法人名	株式会社縁寿		
事業所名	グループホーム縁寿の園 しだれ桜		
所在地	福島県郡山市中田町赤沼瀬戸65-1		
自己評価作成日	令和1年11月27日	評価結果市町村受理日	令和2年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和2年1月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所で理念掲げている、朝の申し送り時に毎日唱和し、共有している。「まごころ込めた旬のサービス」をモットーに季節に添った企画を開催している。入居年数が長く介護度が高くなってきているのが現状である中で少人数でドライブ、散歩などに出かけている。地域交流では、地区、近隣の他施設の運動会や夏祭りへの参加の依頼があり、自立した方に限ってしまうが、参加している。町内会に加入していて、日頃から回覧板返しを入居者様と一緒に御行、地域の一人として関わりを持つ事が出来ている。また、地域ボランティアを受け入れ、日程を決めて頂き訪問して頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 平成16年に開設した法人が、平成31年に現在の法人に経営が変更され、現在に至っている。職員は大半が以前の法人から引き続き就労しており、経験豊富な職員が多い。
- 事業所の協力医療機関は訪問診療を専門としており、医師は月2回、看護師は週1回の訪問診療を基本としているがオンコールにより24時間訪問診療を受診できる体制になっている。
- 利用者の介護度が上昇傾向にあるが、全職員の明るい笑顔と温かいケアに利用者は穏やかな生活を楽しんでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	#	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	#	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.社是である「日々是新」「一人一人の今のスマイルのため、真心込めた旬のサービスを提供する。」を朝のミーティングで唱和し、共有している。「和」を大切にしたいサービスを理念としている。 2.毎朝の申し送り時に唱和することで心を新にしている。	法人及び事業所理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっており、毎朝の打ち合わせ時に唱和し、全職員が共有して日常のサービスに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1.地区町内会(自治会)に加入している。入居者様と共に町内会の行事を行い交流を深めている。また頂き物もあり交流を続けている。 2.地域小学校・他施設などの運動会や夏祭りに参加している。 3.選挙への入居者様の参加など行っている。	事業所では地域の小学校の運動会や夏祭り、さらに幼稚園の入園式や卒園式、学習発表会へ参加するなどあらゆる機会をとらえて地域と交流している。また、近隣の介護施設とも行事等を通して交流しており、近隣住民から野菜等の提供があるなど、地域住民の方々とも親しくお付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1.地域と連携できる様にしている。地域の会議の時にパンフレット等を配っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	1.定期的開催し、会議からの意見情報を重視しサービス向上を活かせるよう努めている。 2.改善が必要な課題を職員間の理解の共有とサービスの実践に努めている。 3.地域の民生委員との交流を深めている。	運営推進委員は各分野から広く選任されており、(社協、町会長、老人会長、民生委員、包括職員、防災協議会長、幼稚園長等)定期的開催している。委員からは様々な提言があり、事業所運営に反映されている。会議録も詳細に記録されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1.上記会議の中の市の相談員の出席がある。行政の方とも話し合っている。	市担当者とは高齢福祉制度についての相談や利用者の状況について常に連絡を取り合い協力関係を密にしている。生活保護利用者もおり生活支援課職員とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1.拘束には全スタッフの意識が高い。拘束はしない。を理解し、互いに注意合っている。玄関の施錠は夜間のみである。	「身体拘束適正化委員会」は平成30年に設置し、年間を通して定期的開催している。全職員は内外研修を重ね、身体拘束や言葉による拘束の弊害を理解し日常のケアで実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1.ユニット会議時、朝の送り時に、スタッフ同士で反し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1.成年後見制度について市の書類で理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1.契約時に丁寧な説明を行っている。解約時はご本人とご家族と相談している。(管理者・ケアマネ)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1.運営に関する要望は、各ユニットで理解し実行している。管理者に申し入れを行っている。	家族の意向や要望は家族会開催時や面会時さらに電話対応時等あらゆる機会をとらえて聴取している。把握した要望等はユニット会議や役職会議等で検討している。また、課題によっては法人に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1.経営会議で各ユニットの代表が意見、提案を出している。 2.少しずつではあるが、反映されつつあると思う。	管理者やユニット主任は日常の業務の中で常に職員の意向や要望を聴取している。職員間のコミュニケーションも良好で事業所では常に誰でも自由に話せる体制となっている。出された意見等は全員で話し合い、事業運営やケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1.経営会議で意見交換を行い、職場の環境作りに生かしている。外部研修の案内もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1.研修に参加している。内容をユニットで発表している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1.管理者が出席している交流する会合がある。そこでネットワークを作りサービス向上に繋げている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1.カンファレンスを実施し、入居者様の行動行為等に寄り添ったケアを行っている。2.事前調査時に、ご本人やご家族の意向を伺い生活歴等の情報を収集、聞き取りを行っている。3.声掛けしやすい雰囲気作りや傾聴をして不安や要望などに耳を傾け、スタッフで話し合っている。4.情報を共有しながら、ご本人やご家族の想いと同じ気持ちで支援できるように努めている。5.入居後は、環境に慣れ早く安心感を得ていただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	1.家族様に逐一報告し、理解をしてもらっている。何かあればご家族の意向を尊重する。2.入居前の面談等で話を聞き、その後も面会時に定期的にお話をするようにしてコミュニケーションを取っている。3.CMや上司を通じて信頼関係の構築に努め、家族が困っていること、不安なことを引き出すよう努めている。4.入居の際、信頼関係の構築に努め、家族は困っていること、不安なことを引き出すように努めている。5.旬のサービスの提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1.何か変化があった場合ご家族へ連絡し、了解をいただき他のサービス利用も案内している。2.ご本人とご家族がどのようなサービスを必要としているのか見極め、最前のサービス提供に努めていく。3.初期対応時は、日々変化が著しい場合がある為、最初から決めつけず対応している。4.ご本人・ご家族の希望する支援とスタッフが新たに築いた支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1.ご家族の想いや、ご本には常に側にいて、寄り添いながら声掛けしており、変化にも即対応している。2.日常生活での家事などを一緒に行っていたり、仕事として任せ頼るようにしている時もある。3.支え合う関係から、だんだんと支える立場が強くなっている。4.個々に合わせたサービスを心掛けいろいろなことを通して共に暮らすパートナーとなるように努めていく。5.介護されるだけの立場で無い事を実感できるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1.ご家族が安心してスタッフを信頼しすすめて行けるよう行使している。2.毎月発行している新聞や面会時に情報共有している。3.入居生活が長くなると、入居者様とご家族の絆が細くなっている感じがする。4.日々の暮らしの出来事や、気づきの情報をご家族に伝達し、同じ気持ちで支援している。5.電話や来所時に、生活状況の説明を行い空白の時間を埋め、離れていても共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	1.会話の中で、ご本人の馴染みの人や場所等をご家族に話を伺ったりして取り入れている。2.友人・知人の面会や家族との外出などを行っている。3.ほとんど、途切れてから入居される方が多い。4.馴染みの人や、昔からの友人が自由に面会や外出が出来るような配慮や呼びかけをしている。5.家族・知人等が、面会に来られた際は、遠慮なくゆっくり寛げるように支援しています。	利用開始以前の馴染みの理美容院の利用や買い物には家族の協力を得ながら支援している。訪問理容を受け入れており、新たな馴染みの関係構築がされてきている。友人や知人の訪問時にはゆっくり交流できるように場所や湯茶等を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1.施設での生活に馴染むように、他の入居者様とのコミュニケーションが取りやすくなるよう取次ぎを行い、スタッフも一緒に参加する。2.レクや行事、家事などを通して入居者様の接点を作っている。3.入居者同士の関係は、その日その日に違いがあるが、関わりあえる声掛けや見守りをしている。4.入居者同士が会話できるよう座席の配置の工夫などを行っている。5.利用者同士の関係を随時把握しながら、介入が必要なときは、適切に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1.どんな時でも、連絡があれば対応し、フォローしていき支援を怠らない。2.他施設や病院等に移動した後も情報共有したり、面会したりしている。3.退居後も安心して生活できるように必要に応じて声掛けフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1.希望や意向の把握に努め、施設という限られた空間ではあるが、本人本位が叶えられるように務めていく。	担当職員が、利用開始以前の利用者の状態や利用者本人の意向や要望を家族から丁寧に聞き取りをしている。入居後は利用者がいかに過ごしたいのかを言葉の端々や仕草等からくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1.事前調査時や、ご家族・知人の方々の面会時において情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1.日々の情報交換や、生活記録・送り等で把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1.居室担当を作り、モニタリングを行い、職員間のカンファレンスで意見を出し合い、マッチした介護計画を作成している。	利用者が尊厳を持って暮らしていく方法を家族と職員間で検討し、利用者の実情に即した介護計画書を作成している。介護計画書に基づき日常生活状況等を把握し、長期目標は1年・短期目標は6ヶ月毎に見直しをしている。緊急時や介護計画に変更が必要な事態にはその都度介護計画を変更している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1.日々の生活状況を記録に記入し、カンファレンスや、ユニット会議にて情報交換を行いながら、変更が必要な場合はプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1.旬のサービスを提供するために、柔軟な支援を取り組んでいく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1.施設に引きこもることなく地域に共に出でいき、暮らしを楽しむ支援をしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1.医療と連携し、必要時適切な治療が受けられるように支援している。	利用開始以前のかかりつけ医の受診については、家族付き添いを基本に引き続き受診できるよう支援している。利用者の生活状況や服薬状況を提供し医療面での相談や助言を行っている。協力医療機関の医師が2週に1回、看護師は1週に1回訪問している。受診結果は家族と連携し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1.週一回定期的に訪問看護を受け健康管理や医療面での相談、助言を行ってもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1.入院時は、施設での生活状況服薬情報などを提供し、退院時は病院と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1.入居時より重度化した時の対応等について家族と話し合っている。また、その段階に応じて家族の意向を確認しながら主治医や関係者と共に支援に取り組んでいる。	事業所では「重度化の介護・看取り介護の指針」を策定しており、入居までに本人及び家族に説明し「看取り介護についての同意書」を得ている。重度化した場合には、改めて家族の意向を再確認し柔軟に対応する体制になっている。過去1年間では4人の看取りの実践がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1.マニュアルを作成し、各自対応できるように努めている。不明なときは主治医や訪問看護師に相談できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1.マニュアルを作成し、定期的に防災訓練を行って、地域の方々にも協力してもらえる体制作りをしているところである。	消防署指導の防災訓練は年2回実施している。事業所独自では毎月マニュアルを基にあらゆる災害に備えての訓練等を実施している。非常時対応として救急箱・米・水・缶詰類・防災頭巾・懐中電灯・衛生用品等を備えている。地域の防災会議の委員が運営推進委員となっており、訓練に参加してもらっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1.会社の指針でもあることなので、入居様が穏やかに楽しく過ごせるよう、気配り見守りを行っている。2.気をつけてはいるが、声のトーンが高くなり大きな声が出てしまうことがあるので、より注意していかねばならない。3.性格もゆっくり変化しているので、言葉づかいや声掛けに注意している。4.職員は、個々の尊厳に配慮し、言葉かけや対応などに注意を促している。個人情報取り扱いにも十分注意を促している。5.スタッフ全員が接遇できるよう勉強会なども行っている。	職員は日々のケアの中で、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。利用者の個人情報簿冊等は施錠可能なキャビネットに保管している。事業所広報紙に掲載する写真等は事前に家族の同意を得た方のみ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1.入居者の自己決定を尊重している。好きな飲み物や食べ物を聞き、得意な分野は逆に応援していただいている。2.見守りやご自分で出来ることを誘導し、自信を持てることに喜びを味わっていただく。3.日々の声掛けや会話の中で選択していただいたり、本人の希望を傾聴している。4.思いを口に出せない方もいるので、表情や動作に目を向け、ご本人の思いの把握に努められるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1.入居者に寄り添って都度対応している。2.休みたい時は無理せずゆったり過ごしていただき、希望に沿って支援している。3.希望に沿って支援しているつもりではあるが、管理上すべてにに応じられてはいない時もある。4.楽しみを持って過ごせるよう入居者のペースを崩さず、無理のない支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1.鏡の前にて声掛け、ご本人自身に見ていただき認識していただいている。2.床屋に来院していただいたり、化粧の教室などを開いて参加してもらおう。3.自分で行える方には、自分で行っていただき、出来ない方には、声掛けをしながら行っている。4.入浴後は、化粧水やクリームを使用する支援をしている。5.起床時、入浴時ご本人と一緒に下着や服などを選んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	1.側にて声掛けや見守りし、楽しく食事を楽しめるようにしている。2.数か月に1～2回特別メニューを設け、入居者様の食べたいもののリクエストにお応えしている。3.食事介助が必要となっている入居者様が半数以上になり、一緒に味わう支援は減っている。4.誕生日や、祝日の行事に、好きなものや、行事にあった食事・おやつを提供している。5.季節の旬の食べ物を提供している	献立や配送は、委託業者を利用している。職員が調理を行い、地域住民からの旬の野菜等の差し入れや利用者の好み等を考慮し楽しい食事になるよう支援している。行事食も多く提供している。利用者の体調により、おかゆ・刻み食等の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1.常に、食事量・水分をチェックし見守りしている。 2.毎日記録を取り、それぞれに合わせたケアや食事・飲み物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1.毎食事後、口腔ケアを行いご本人にも確認していただいている。 2.食後の口腔ケアを行い、歯科医にも訪問してもらっている。 3.自力で出来ない方は一部介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1.ご本人の出来ることを尊重し、立ち上がれる方は排泄を継続できるよう見守りしている。 2.時間ごとに声掛けし、トイレでの排泄習慣を維持できるような支援に努めている。	トイレでの自立排泄を目標に支援しているが、高齢になるにつれて困難となってきた。排泄チェック表を活用し、経過時間や利用者の仕草等からさりげなくトイレに誘導している。便秘対策には医師の指導を受けながら水分の補給等に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1.出来る限りトイレで排泄できるよう誘導しており、日々排泄状況を認識し、個々に応じた対応している。2.食べ物や水分、運動も工夫し、便秘が続くときは医師とも相談の上、排便コントロールしている。3.排便への周期を把握して、水分や運動など行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1.入居者のタイミングに合わせて入浴をしている。入浴困難な場合は、スタッフ2名で介助にあたり、清潔、代謝を良くし、気分転換にもなるよう支援している。2.入浴する時間は決まっているが、中でも楽しめるよう入浴剤などを利用し工夫していきたい。3.バイタルチェックを行い、入居者が健康維持でき気持ちよく入浴できるようにしている。	入浴前にはバイタルチェックを行い、身体が不自由な利用者には職員2名で対応し、気持ちよく入浴できるよう支援している。お湯は1人毎に交換している。入浴嫌悪者には時刻・話題や担当者を変えながら誘導している。入浴出来ない利用者には足湯・シャワー浴・清拭等で対応している。ゆず湯・菖蒲湯等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1.入居者様の要望に応え、快適に過ごせるようケアを行っている。2.それぞれ自由に居室やホールで休まれている。3.心穏やかに入眠できるよう声掛け等特に気を付けている。4.日中は、本人のペースに合わせ、なるべくホールでレクリエーション、体操を行ったりしており、疲れたときは、ホールで休んでいただいている。夜間気持ちよく眠れるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1.薬の内服は、間違いの無いようスタッフ間で顔と名前を確認し、声掛けし合って支援している。2.確実に内服できるようご本人への声掛け見守りしている。3.スタッフ同士共有し、服薬支援や症状変化等確認に努めている。4.医師からの指示があった場合、ケース記録に記入し、職員間で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1.季節、天候などで外気を感じられるようケア行い声掛けしている。 2.散歩や歌などそれぞれが好きなおことをケアプランに反映して気分転換お支援を行っている。 3.入居者様が出来ることを役割として行ってもらっている(食器拭き・モップ掛け・タオルたたみなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1.市街地に外出ドライブしたり、散歩に出たりと気分転換をしていただき、入居者様に变化提供して楽しんでいただく。2.年齢が増し、現状ご家族がご本人の希望を受け入れして行くことが、年々減ってきているので難しいが、ご家族などの協力を得て今後行えるようにしたい。3.スタッフと一緒に買い物や役所等に車で外出して外気を味わっていただいている。	好天時には事業所周りを散歩している。季節ごとにドライブで花見・紅葉狩り・初詣等を楽しんでいる。職員が事業所の用事で出かけるときなどには利用者も同行してドライブを楽しんでいる。家族の協力で買い物・墓参り・外泊等を楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1.ご家族の方に伝え、事務所で預かってもらっている。紛失事故にならないよう入居者様に安心していただく。2.お金の所持は、なかなか難しいので、スタッフが管理している。3.事務所で預かってあるお金を渡し、使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1.ご家族より携帯電話等を預けられている方は、充電の確認などスタッフ間で連携している。 2.自ら携帯で家族と連絡を取ったり、手紙を出したりしている。 3.ご本人の要望があった場合は、職員が代わりに連絡をご家族にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1.他入居者様との関わりをスタッフが介入し、努めている。 2.湿度や日当たりの調整をし、季節感のある掲示物などを掲示している。 3.花などを飾り季節感を感じるようにしているが、興味を持ってない方も増えている。 4.居室には、企画などで撮った写真を飾っている。	共有空間には椅子とテーブルのエリアと畳のエリアがある。ベランダに直接出られ避難時には有効である。壁には季節感あふれる利用者の作品や写真等が飾られ、利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1.入居者様応じた対応、声掛けを心掛けている。 2.食席の工夫をし、快適に過ごせるよう工夫をしている。3.共有空間では、見守りをして居場所作りをしている。4.畳コーナーで座布団を置き自由に過ごしたり、テーブル席で気の合う入居者同士でくつろいでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	1.入居者様の馴染みのものを確認できるよう声掛けしてケアを行っている。 2.入居時、それぞれの馴染みのものを居室に置いていただき、過ごしやすい居室となるよう努めている。 3.ご家族に協力していただき、使い慣れたものを持参していただいている。	居室に介護ベット・エアコン・換気扇及びクローゼットが設置されている。利用者は、仏壇・テレビ・小箆笥など使い慣れたものを持ち込み自分らしく生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1.一人一人のしたいことを把握し、見守り対応している。2.歩行がスムーズにできるようフラットな床や障害物を少なく安全に工夫している。3.居室やトイレ等わかりやすく案内している。4.ガラス窓には、色のついたシールを張ったりして工夫している。		